

# 〜住み慣れた地域で 自分らしく生きるために〜 地域で見守り・支え合う活動をご存じですか？

「年をとって近所の友人が少なくなり、自宅に閉じこもりがちである。」

「ケガや病気になっても、気軽に頼れる人が近くにいない」

少子高齢化や核家族化が進み、昔ながらの「向こう三軒両隣」の関係が希薄になる中、このような孤立や不安を抱える人は少なくありません。

そこで、いま、各地域で活発に行われている、地域で気になる人を見守り、支え合う活動の一部をご紹介します。



## 鍋島校区

鍋島校区では、平成9年に「鍋島訪問ボランティア部会」を鍋島校区社会福祉協議会内に設けました。

部会では、24人の部員たちが、独居高齢者や体の不自由な人の安否確認、また孤立感・孤独感を感じないようにと、身近な話し相手として活動を展開しています。

他にも、校区で開催される催しの手伝いや、子どもたちの安全見守りなども行っています。

また、市内で最も早く「ちょこっとボランティア活動」を開始しました。



見守り活動の様子（鍋島）

ごみ出しや  
電球交換など、  
高齢者や障がい者や障が  
い者のちょつ  
とした困りご  
とを、鍋島校  
区のボランテ  
ィアがお手伝  
いしています。

## 久保泉校区

久保泉校区では、昔からのなじみの住民がほとんどであるという特徴から、できる人が、できる時に、できることを、楽しく、をスローガンに、地域住民がみんなで協力し合い、住みやすい久保泉を目指して活動しています。

平成12年に「福祉員制度」を発足し、現在、23人の福祉員が久保泉校区社会福祉協議会会長の委嘱を受け、近所のお年寄りや手助けを必要としている人を日頃からさりげなく見守り、SOSを聞きつけたら自治会長や民生委員・児童委員へ連絡しています。



ふれあい会食会の様子（久保泉）

平成25年からは、「ちょこボラ」を開始し、高齢者や障がい者でちょっとしたお手伝いを希望する人を募っています。

## 北川副校区

北川副校区では、北川副校区社会福祉協議会を中心に、校区内の福祉関係者を集めた「支え合う福祉のまちづくり講演会」を定期的に開催しています。

認知症や高齢者の居場所づくりなどをテーマとし、毎回150人近くが集まり、たいへん盛況です。

校区をあげて、福祉に取り組む体制が整っています。

平成16年にスタートした「福祉協力員制度」にも精力的に取り組んでいます。30〜50世帯に1人の福祉協力員を配置し、目の届く範囲のご



講演会の様子（北川副）

近所同士による見守り活動を展開しています。また、関係者による「連絡調整会議」を行い、さまざまな問題について、地域全体で解決に向けて話し合っています。

## 兵庫校区

兵庫校区では、昨年、チラシ「無償！ちょこっとボランティアを利用しませんか？」を全世帯に配布しました。徐々に住民に知られるようになり、利用者も増えています。

「兵庫校区ちょこっとボランティア」（兵庫校区社会福祉協議会）では、福祉協力員が見守り・声かけを基本とし、日常生活に入り込まない程度の簡単な手助けを行っています。

その特徴は、2人の福祉コーディネーターが、福祉協力員から相談を受け、自治会長や民生委員・児童委員、おたっしや本舗などの関係機関と連携し、問題解決の場として単位自治会ごとに「福祉連絡会議」を、さらに校区単位では「福祉連絡会議」の報告を受け、「ちょこボラ会議」を定期的に開催しているところです。



ちょこっとボランティアのチラシ（兵庫）

## 本庄校区

本庄校区には、地域の中の「気になる人」がどこに暮らしているのかを情報として整理し、「見守る側」が共有するための「福祉マップ」があります。

平成17年に当時の本庄校区社会福祉・教育協議会（現：本庄校区社会福祉協議会）でプロジェクトチームを発足し、自治会長、民生委員・児童委員などと協議を重ね、平成19年に「本庄校区防災・福祉マップ」が完成しました。

民生委員・児童委員を中心に作成し、3年に1回改定し、平成25年秋には3版目ができました。

本庄校区では、このマップを災害時に活用するほか、日頃からの見守り活動に役立てています。



福祉マップ（本庄）

## 問い合わせ

本庁 福祉総務課 福祉政策係 ☎40・7250

FAX 40・7393

佐賀市社会福祉協議会

地域福祉課

☎32・6670

FAX 32・6665